

草の根技術協力（地域活性化特別枠）事業提案書要約

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	パラオ国
2. 事業名	パラオ国ベラウ・エコ・グラス・スタジオ(廃ガラスを活用したガラス工房)の事業軌道化
3. 事業の背景と必要性	同国は豊かな自然環境を活用した観光開発を経済発展の主軸としている。持続的な観光開発のためには、適切な環境管理と生態系の保全を図る必要がある、そのためにごみの減量化や3Rを促進することが大きな課題となっている。そのような中、本案件は同国の廃ガラスの減量化、また循環型社会の形成を目指し、コロール州が所有するガラススタジオが環境保全に関する啓発物を整備し、廃ガラスを使ったガラス工芸事業を確立することを目指すものである。
4. プロジェクト目標	「ベラウ・エコ・グラス」が現地スタッフによって運営できるようになる。
5. 対象地域	コロール州
6. 受益者層（ターゲットグループ）	直接受益者：ベラウ・エコ・グラス（現地ガラススタジオ）スタッフ 11名 間接受益者：コロール州公共事業局廃棄物管理事務所職員、コロール州住民
7. アウトプット及び活動	アウトプット1：現地技術スタッフが、ガラス工芸の制作技術とインストラクター技術を有するようになる。 1-1：現地技術スタッフに制作・インストラクター技術研修を行う。 1-2：インストラクター用（技法、指導、安全管理、メンテナンス）のマニュアル、チェックシートを作成する。 1-3：ガラス工芸について専門性を要する備品、資材、在庫管理についての管理ができるようにする。 アウトプット2：ベラウ・エコ・グラススタジオの営業体制が整う。 2-1：ベラウ・エコ・グラス・スタジオの仕事について意識を高める。 2-2：コロール州の（資源循環型社会）環境への取り組みを含む観光客に向けた広報活動の指導、サポートを行う。 2-3：観光業者（本邦・現地）へ新規体験コースの企画提案が行える様に指導、サポートを行う。 2-4：営業（予約、接客、会計、施設管理、スタッフのシフト管理、ツアー受入、作品販売）のトレーニングを行う。 2-5：販売・展示の企画・運営の指導、収支計画のサポートを行う。 2-6：売上情報・利用者情報を集積し、取りまとめ、分析、活用ができる様に指導、サポートを行う。
8. 実施期間	2022年2月～2025年2月（3年）
9. 総事業費	61,941千円（税込）
10. 事業の実施体制	日本側：NPO法人グラスクラフト協会、三田市 パラオ側：コロール州公共事業局廃棄物管理事務所
II. 応募団体の概要	
1. 提案自治体名	提案自治体：三田市
2. 活動内容	三田市は1993年に三田市ガラス工芸館を開館し、ガラス工芸の制作・施設設備のレンタル・講座および一日体験の運営を開始。2014年から三田市ガラス工芸館の指定管理者としてNPO法人グラスクラフト協会を指定。2018年から2020年まではJICAと協定を締結し、3名をパラオにJICA海外協力隊として派遣し、現地のガラス工芸技術の支援を行っていた。